

# 名瀬港

## 鹿児島県土木部港湾空港課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

☎099-286-2111(代)

URL : [http://www.pref.kagoshima.jp/ah09/infra/port/minato/cruising/index\\_6.html](http://www.pref.kagoshima.jp/ah09/infra/port/minato/cruising/index_6.html)



## 1. 概況

### 〈奄美群島の拠点港湾〉

名瀬港は、奄美群島中最大の島である奄美大島の北西部に位置し、鹿児島から379km、那覇から335kmの距離にあり、古くから本土をはじめ南方諸国との貿易港として、また奄美群島内各島を結ぶ海上交通の拠点として利用されてきた。名瀬港直背後には約4万人の人口を擁する奄美群島最大の市街地である奄美市があり、群島における産業、経済、交通、文化の中心地として重要な役割を果たしている。

### 〈大規模な港湾の建設〉

名瀬港は大正11年に旧港湾法により港湾としての指定を受けていたが、終戦までは小規模な港湾施設しかなく、大型船が接岸できないため、はしけによる荷役が続けられていた。

昭和20年8月の終戦と共に、奄美群島は米国の統治下におかれていたが、昭和28年12月の祖国復帰に伴い、奄美群島復興特別措置法が公布され、29年7月には群島における流通拠点としての機能を確保するために、名瀬港が重要港湾に指定された。重要港湾の指定に伴い、本格的な港湾整備が開始され、昭和31年には本港地区ふ頭が完成し、これにより本土と結ぶ定期フェリーがはじめて接岸可能となっている。その後、経済の発展に伴い本土との海上交通は頻繁になり、入港船舶の増大・大型化及び取扱貨物量が増大してきたため、より一層の港湾施設の整備拡充が要請されていた。昭和49年には「奄美群島復興開発計画」が策定され、名瀬港においても新たに本港地区大型バースの建設に着手し、現在では10,000DWT級の貨物船が接岸可能な水深9m岸壁2バースを有する大型ふ頭が稼働している。また、長浜地区には、クルーズ船が常時接岸できる水深10m岸壁1バースも平成16年から供用開始している。

現在、名瀬港には鹿児島～奄美・沖縄航路、鹿児島～奄美・喜界航路、十島航路の合計3航路の定期フェリーが就航しており港湾取扱貨物量の約4割をフェリー貨物が占めている。取扱貨物量の推移は昭和35年当時11万トンであったものが、昭和51年には38万トン、平成30年現在では100万トンに達している。主な取扱品目は移入が金属機械工業品・特殊品、移出においては金属機械工業品・軽工業品が大半を占めている。しかしながら、フェリー以外の取扱貨物量の増大に対応した内貿ふ頭は手狭な本港地区のふ頭用地しかなかったことから、流通拠点強化のため、佐大熊地区公共ふ頭の建

設に着手し、平成18年から供用開始している。

### 〈発展する名瀬港〉

名瀬港は、「島民の安心で豊かな生活を支える生活密着型港湾としての機能を向上させるとともに、地域経済発展の柱と位置づけられる観光産業の発展に寄与する」港湾を目指し、平成16年3月に港湾計画を改訂したところである。

現在、この港湾計画に基づき、流通及び交流拠点としての機能を強化するため岸壁(-7.5m)改良の整備を進めるとともに、本港地区において人々の安心な生活を支えるための震災等の災害時における緊急物資の輸送や防災空間の確保に供する施設整備を行っており、平成27年に、水深6.5mの耐震強化岸壁を暫定供用開始し、現在、背後の緑地、臨港道路の整備を進めている。

また、立神地区において、防災機能の強化として県地域強靱化計画に基づき防波堤の改良を実施している。

長浜地区に観光船バースを整備したことにより、平成24年4月には初の外国クルーズ船6万トン級が寄港し、平成30年には過去最高の21回のクルーズ船が寄港している。

令和元年には、過去最高の8万トン級のクルーズ船が寄港するなど、観光船バースは島内外の人々の観光交流拠点として、重要な役割を果たしており、奄美大島を含む南西諸島が世界自然遺産登録の候補地に選定されたことや、島唄に代表される奄美の文化特性、長寿・癒しの島としての社会特性が国内外から注目を集めるなど、今後、観光振興による地域活性化が期待されている。